「であい・ふれあい・まなびあい」から
「つながりあい・ささえあい」へ

おおっ！おおおか！再発見
大岡集楽学校

大岡一〇区をフィールドに開催する地元学講座

"「であい・ふれあい・まなびあい」から「つなぎあい・にないあい」へ"をテーマに、昨年と今年の二年間、大岡全区を北から順に巡っています。今年度は、中央・中部・根越・芦ノ尻・笹久の五地区を探訪、地域を歩きながら、地域のみなさんと交流し、地域を再発見する意義深い講座です。各区を巡りながら、地元の方の説明や講師・宮下先生の解説を交えて地域のことを学びます。

大岡地区住民自治協議会　会長 中村哲夫

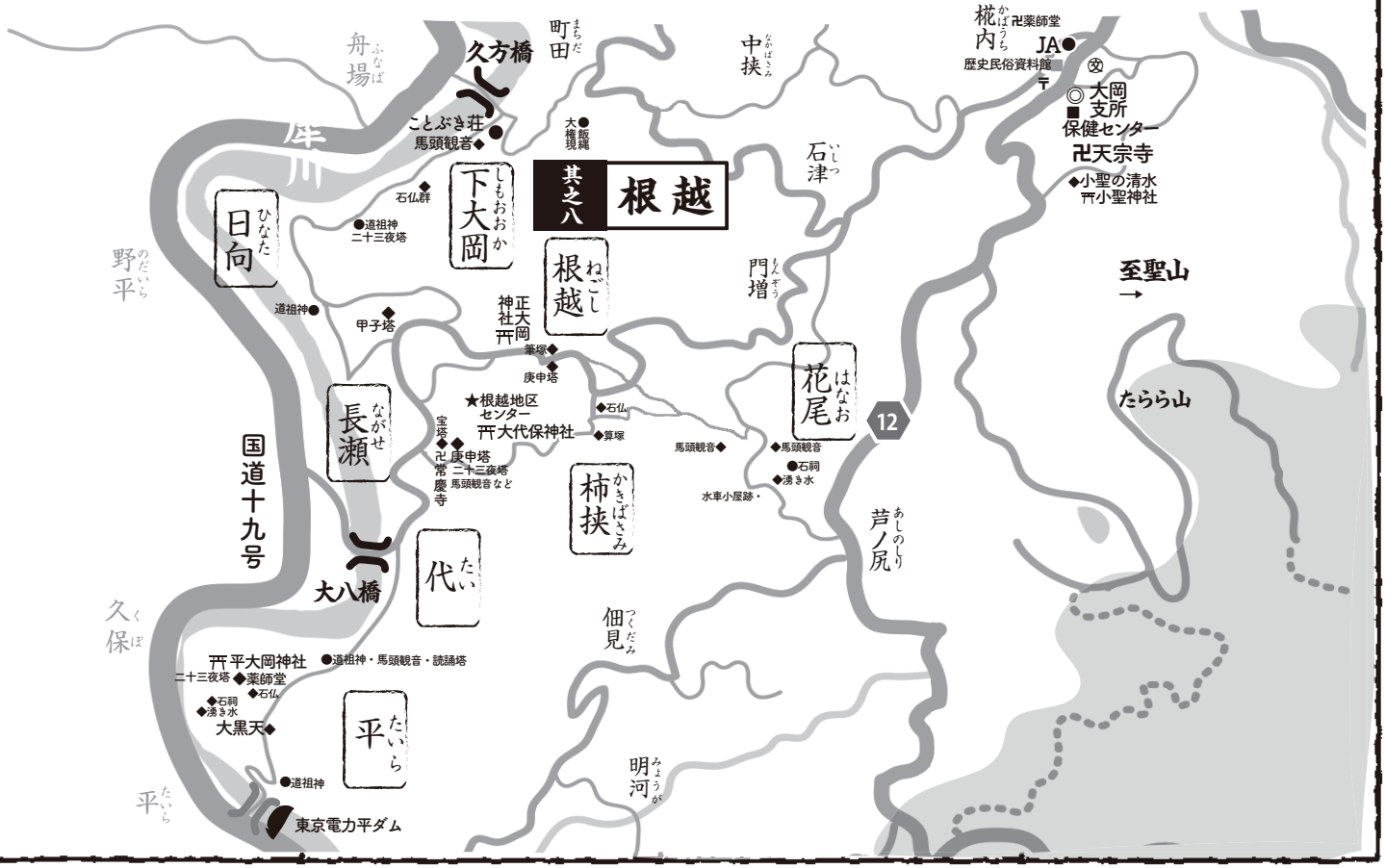
其之⑧ 根越（ねごし）

平成28年
7/18（祝 海の日）

根越地区コース概略

大岡支所（バス受付）開講式
⇒**花尾** 湧水地・おやしろ・道祖神
⇒**平** 平大岡神社・薬師堂・大黒天石像
⇒**東京電力平ダム** 施設内見学
⇒**下大岡** 馬頭観音、堤防
⇒**昼食** ＜根越地区センター＞ 根越区の方々の協力　旧文教所跡地
⇒**正大岡神社** 見学
⇒★**代、日向・長瀬** ビデオ紹介、ほか
講師のお話 ＜根越地区センター＞
⇒ 大岡支所（解散）

主催／ 大岡地区住民自治協議会・根越自治会　　共催／ 長野市大岡支所・大岡中学校・大岡小学校・大岡小中PTA



❶ 花尾（はなお） 集落を歩く

時を越えて滴る清らかな源流の里

◎「花尾地区」の現在総戸数は4軒、根越地区では聖山にも近い上方で芦ノ尻に通じる道があります。

◎清流が湧き続けている安山岩の石ゴウロの斜面は根越沢の水源で西斜面に田畑が広がります。石ゴウロの石を使った石垣（谷積み、矢羽根積み）を土台にした家。

◎湧き水には清流にしか棲まないクロサンショウウオ、ハコネサンショウウオがいます。根越沢は、生活用水、水田用水として使われてきました。自然石を使った石段を上っていくと、茅葺きの三角形の屋根囲いで覆われた横に三峯さんの祠があります。

◎この祠は中腹にある正大岡神社の祭日の朝早くに花尾・根越の人が集まってカヤで円錐形に毎年屋根を葺き、終わると下の湧水の場で一杯やる風習が残っています。

◎湧き水の水場となっている辺りに昔は「正古屋社（古宮権現）」や「長屋」と呼ばれた家屋があったとの伝承もあり、正大岡神社にも永正十五年に花尾から下沖里宮へ社殿を移したという棟札の写しがあったようです。（大岡村誌）

石ゴウロを登っていくと明るい光の先に茅で覆われた横にお社がみえてくる。入口にはイラ草の群落も。

根越沢からの清流が田畑を潤しながら下っていく静かで美しい小宇宙！

その水が流れる道下にかつて水車小屋があった。泉と川にクロサンショウウオが棲む。

参道の足下から水音が…♪

味噌炊き窯

湧水横に露天の味噌炊き窯あり、ここでカズをふかした。

おおっ！ ここがすごいぞ 大岡山と ノ神

よりみちメモ

三峯信仰

今も続いている 今も護られている

◎この「道祖神盗み」と言われる風習は、夫婦道祖神の多い松本地方にも多くみられます。繁栄している村の道祖神を盗むことによって、その繁栄にあやかるために行われたとも言われ、道祖神の嫁入りとも言われるそうです。また、村の若者によって行われたとも伝わります。

えっ！盗んだの？

おおっ！ ここがすごいぞ 大岡

よりみちメモ

隠れ道祖神

◎三峯社のすぐ下に花尾の「隠れ道祖神」双体像2基があります。今から、八〇年前、1月7日の夜に、「松屋のじっさが半纏にくるんで「代」から盗んできた」ために、取り返えされないように人目に付かない山の中に隠したと言い伝えられています。

❷ 根越（ねごし） 集落を歩く

根越沢に沿って ひろがる田園地帯

◎根越は江戸時代には「大岡通り」の一村で、江戸後期の大岡全体の通り名では大岡を構成する四つの村区分（川口村・和平村・根越村・宮平村）の一つ。松代藩の支配区分の名称「大岡四村」のなかでは石高は宮平組に次いでいました。

◎集楽学校の会場でもある「根越地区センター」は大岡小学校根越分校跡地で、広い校庭にかつては土俵がありました。玄関の土台石や大正五年植樹の校カエデの大木が残っています。（紅葉がみごと）

「政順学校」誇り高く

●明治八年には根越村の戸数は一六七戸、人口は八五六人、就学児童数は就学で百人。明治九年の資料に校名「政順」と記載があります。

❹ 大代保神社（おおしろほじんじゃ）

山の頂上には…。

火事前の建物の一部が残る。

●林道に沿った参道を登ると山頂に社殿が見えてくる。参道が急傾斜でもあるので現在御神霊は地区センターに。

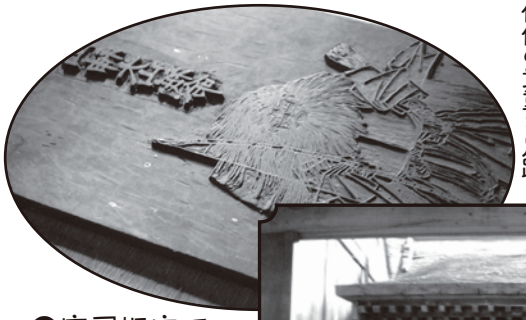
❸ 正大岡神社（まさおおかじんじゃ）

舞台の巨大一枚板やおふだの版木が残る

◎かつて、下大岡・石津・門増・中挟・長岩・佃見・花尾・根越の八集落の氏神さまで明治後期から村社に格付けられました。戦時中は出征兵士の武運長久を祈願し兵隊に行く時には、村長（又は代理の者）はじめ、大勢の人が出て歓送。戦前の春秋の例大祭の日には根越分校は休みとなりました。

●本殿　一間社流造り　鬼板あり

●拝殿、本殿、社務所、舞台

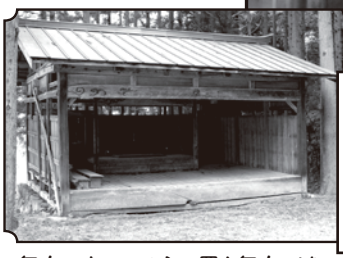


おふだを刷った版木が見つかった。信仰の貴重な足跡。

●宮司旧宅で版木を発見！（青木宏之氏蔵）

本殿

拝殿



神楽殿

舞台のなかにさらに置き舞台がある。正面には堂々の大岡産の一枚板。

●祭神
健御名方命
八坂斗売命

三峯社の入口には直会でも使われる拝殿。神様の通り道として背面を空けてある。奥にやや小高い烽火台、そこに「下大岡邑中」と刻んだ山の神の石祠あり。祭りは1月17日。

三峯社の本殿にはいまも毎年おふだが納められている。

◎下大岡・日向・長瀬・代・柿挟・根越の信者が三峯講をつくり、山の上に分社を建てて、今も毎年4月9日に例祭を行なっています。

◎本殿は石の基礎に上に木造の祠「御眷属拝借之牘（ふだ）」大岡乙八戸。三峯講は日向・長瀬・代・根越で三峯に代参市川忠雄さんを中心に15～16軒。十国峠を越えて、1986年が最後、今は郵送。お札を頂いてきてから祭りを行う。

◎三峯社に祀るものと個人宅に配るおふだを頂きます。

⑤ 平（たいら） 集落を歩く

犀川に沿ったのびやかな平地

◎「平」地区は犀川の蛇行点にある半島状の上の平地広い平地で柿、果樹（リンゴ）養蜂などの田園風景が広がります。田んぼは平らダムから揚水しています。「岡床（おかどこ）」のため、畑作で麦・豆などが作られていましたが昭和二十四年の揚水ポンプで水田が開田され開田記念碑があります。

◎公民館横に砂岩製の大きな大黒天像あり「明治二十一年子年」「平中」と彫られています。

地区の出入り口の道沿いにある道祖神などの石仏群。

碧々とした山影を映す水田の美しい水鏡。この風景は戦後になっての開田による。

⑦ 平大岡神社境内 薬師堂

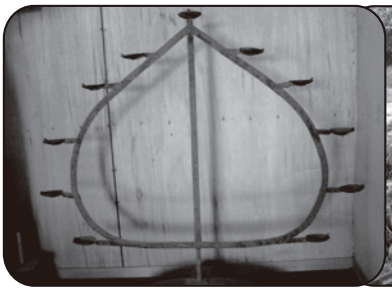
如意輪観音石仏

柔和で温かみのある石仏の表情。

扉に桐の紋章入り！雅びな厨子に薬師如来

◎薬師堂内の厨子には薬師如来立像（一体は阿弥陀如来か？）が収められている。

◎周囲に古い五輪塔、宝きょう印塔（室町）があることから、伝承が途絶えてしまったが、江戸時代中期に中興と記録される天台修験寺院が後に熊野社とされ、寺社境内一帯が平大岡神社となった可能性もあるかもしれません。



如意宝珠の形どった燭台

おおっ！ここがすごいぞ大岡

よりみちメモ

平の湧き水

分け合う共同水

◎沢の無い平地区ですが古くから段丘下部の岩下に湧き水あり、平の水源として大切に使われてきました。ここから各家へは天秤棒で家に運び水甕に入れました。地区では「土曜風呂」といって土曜日に風呂をわかしていたと言います。

泉の横には現在使われていないカズ（楮・こうぞ）を浸す池、周辺にはシュウカイドウの群生など、彩り豊かな水辺風景となっています。

泉の横には今は使っていない池もある。犀川の水音がすぐ聞こえ、夏は涼やかな川風が吹き上げてくる。

⑥ 平大岡神社（ひら おおかじんじゃ）

赤い鳥居の奥に鎮座する産土社（うぶすなしゃ）

◎元は茅葺き屋根、昭和四十六年に屋根修復、天井に古い社殿あります。熊野社を碓氷峠の熊野皇大神宮より勧請してきたと伝承されている。また「この神様は朝寝が好きなため、ここでは鶏を飼わない」といった伝承もあります。境内の舞台では村芝居があった頃もありました。

◎境内には、天神社石祠、庚申塔（元禄七年一六九四）、（安永二）、二十三夜塔がある。

◎周囲の畑の中には大きな礫岩（地元では豆石という）の岩塊があり、岩の上に馬頭観音（明治二十年）などが祀られている。

●祭神
伊弉諾神（イザナギノミコト）
伊弉冉神（イザナミノミコト）

赤い鳥居と大きな常夜灯

常夜灯には文化十三年（一八一六）と彫られている。
深紅の鳥居は熊野社の名残りかもしれない。

境内の林の中には自然石の上に祠を祀っている。犀川の氾濫域でもあったので大きな岩も様々な素材のものがある。

本殿

梁の上に載せられているのは古い社殿。
天井中央の梁には建立の書き付けが墨書きされている。

拝殿

平大岡神社境内には大きな石像物を集めた一角がある。

馬頭観音石仏を戴いた自然岩塊。
礫岩地元では「豆石」と言う。

二十三夜塔

おおっ！ここがすごいぞ大岡
よりみちメモ

二十三夜塔って何？どうして二十三なの？

月齢二十三の月が重要！

◎二十三夜塔（月待塔）は、きまった「月齢」の夜に、信心している仲間が集ってお経を唱えて月の出るのを祈る行事を「月待」といい、その講中（信仰仲間）が証（あかし）として建てたのがいまもある二十三夜塔（月待塔）で、江戸時代中期広く行われた民間信仰のひとつで二十三日の月＝新月より二十三日目の下弦の半月に主として女性講が、安産を祈り、豊穣を祈った信仰でもあります。

勢至菩薩にお祈り？

◎月の出は遅い二十三時ころで、二十三夜の月の出を待って、勢至菩薩に祈りました。月は悟りの隠語でもありますが、勢至菩薩は阿弥陀如来の脇侍で智慧を司る仏であるため悟りへの介助役ともされています。ここで智慧とは、知識や言葉ではない叡智のこととされ、悟り（男性：陽）にとっての女性（：陰）の役割が一体となって豊穣を生み出す暗喩となっています。

要するにお楽しみ茶会が大事！

◎ムラの女性が集まり、遅い月が出てくるまでの間、お茶を飲んだり、食べたりしながら月待ちをした。月が顔を出すと、子どもが授かるように、子育てがうまくいくように、子どもが元気で丈夫に育つように月を拝み、折り、お願いし、月の光を浴びてパワー、元気をもらったのです。

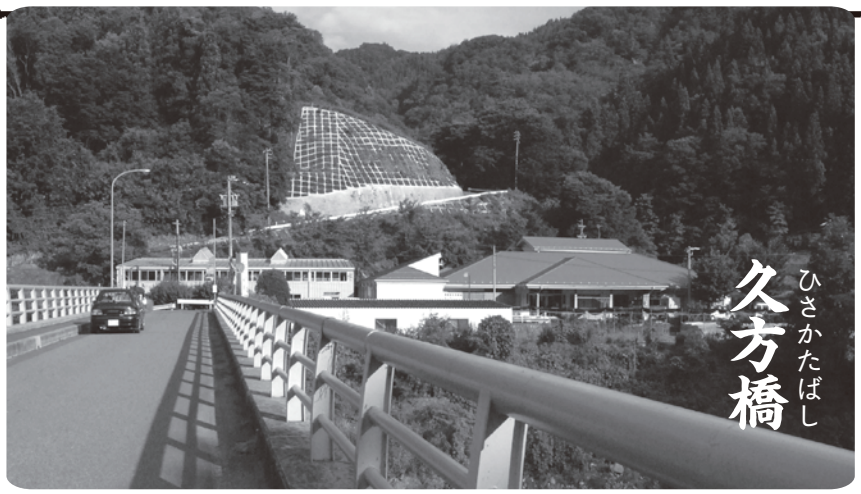
子どもが生まれ、無事育つことで、子孫、ムラの繁栄を意味しました。だから、庚申塔、道祖神とともに村の入り口にこの三種の石仏が立てられたのです。

ちなみに道祖神は夫婦和合、子宝祈願、子孫繁栄の神で、庚申塔は一粒万倍を祈る作神であり、この三種の神様はムラにとって繁栄・永続性を願う最も大事な神様でした。

⑧ 下大岡（しもおおか） 集落を歩く

山国大岡の犀川接点。古くから交通の要所。

◎「下大岡」地区の現在の総戸数は十軒。聖山のふもとの山ひだの沢沿いの集落が多いなかで犀川に接して集落が開け、生活風習でも川とのかかわりが多い地区です。現代は護岸工事によって堤防が施され、水門、堤防の嵩上げなどもされています。



県道石津久方橋線から「ことぶき荘」を望む

「久方橋」は昭和に入って2回流されている。25年、58年に激甚災害指定。

⑩ 飯綱大明神 集落を見守る高台に

◎飯綱大明神　集落東側の急登した山の中腹　周囲は太いヤダケ。下大岡の氏神として祀られ、信仰されてきた「お飯綱様」「おいづなさん」と呼んでいる。

⑪ パワーグリッドKK（東京電力） 平発電所

◎平発電所は二〇一六年四月より、東電が4つに分社化されたことにより（ホールディング）、発電所はパワーグリッドKKになりました。

◎「平発電所」は昭和二十七年三月から、一三〇立方m／秒。東電県内三〇箇所の発電所は小諸総合制御所。

発電機1基　船のスクリューを縦にした形。

おおっ！ここがすごいぞ大岡

よりみちメモ

下大岡ならでは 川にまつわる話

●根越分校の遊び、山の上の大代保（おおしろほ）神社へ行くか、犀川に下りて水泳をしながら魚を獲る（鯉）――区長さんの話し

●体育の時間に犀川で水泳　和田先生　小学5・6年（15人、19人）いつも市川久雄さんが一番先に泳がされた

●代の発電所放水口に急流を泳がされた、久雄氏溺れ、先生が助け、その時から放水口での水泳は止めた

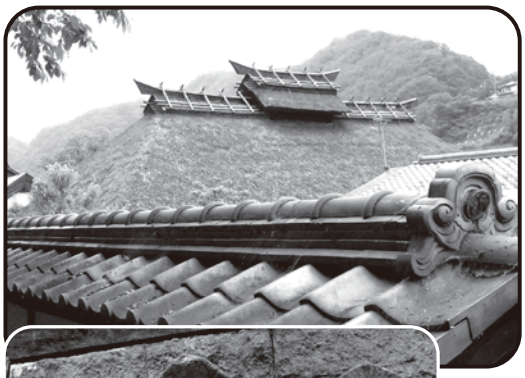
漁労　ケイサンド　三角形の網、前1.5m川の水が濁った時に上流側2～3mで下流に置いたケイサンドに魚を追い込む。松根の松明で、夜にヤスで魚を刺してとる（その後カーバイトに）サケ、マス、コイ、フナ、ウナギ、ウグイ、オイカワ（ジンケン）、サスリ（アカザ）、ナマズ、川エビなどを捕獲した。

⑧ 石仏 下大岡の石仏を訪ねて 集落を歩く

◎北側の入口には大きな「馬頭観音」があります。大岡の中では池田の道沿いにあるものと似ており、この「下大岡」が川によって外郭と接し交通面からも大岡一村全体の主要な交通出入り口とされていた名残りなのかもしれません。また、「堂屋敷」と「酒屋敷」という地名が残っています。

◎南側の入口には道祖神や二十三夜塔（月待塔）馬頭観音があります。

◎山すその一角に子安観音・如意輪観音、薬師如来（文字碑）などの石造物群が集中している「堂の上」の地籍があります。



度重なる洪水にみまわれているが下大岡には古い家屋の面影を残す家も点在する。

石仏や仏塔、祠型の墓石など、時代を重ねた信仰の足跡が大切に保存されている。

馬頭観音 川近くの道沿いにあり旅人の安全を見守った。

供養宝塔

水面は常に一定にして羽根の角度を変える山梨経由で関東へ送電しています。

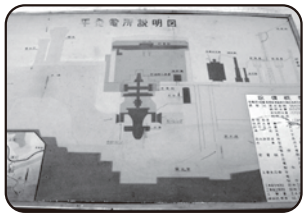
取水ゲート　生活ゴミ二五〇〇立方m
廃プラスチック―再利用、
草木ゴミは焼却

震度4以上の地震では必ず点検し、長野市や国に報告、コンクリの耐用年数は長い

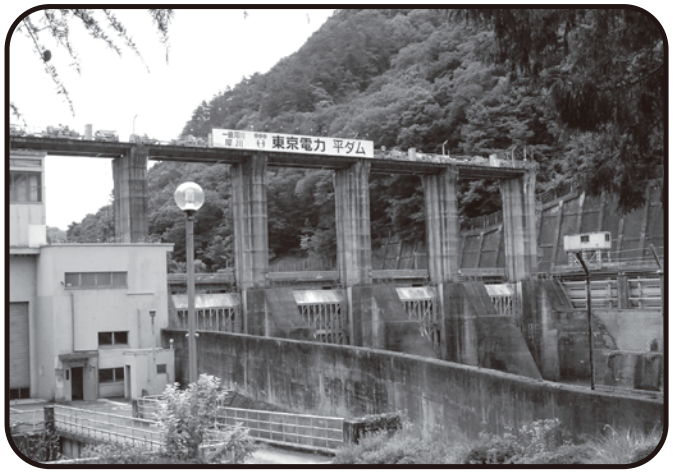
表面は風化しても内部は強い水内ダムは昭和十八年操業。

平ダムの橋、4トントラックが通れるコンクリート橋になっている。

巨大なスクリュー



解説版より



⑫ 柿鋏（かきばさみ） 集落を歩く

静かな沢筋に沿って

◎根越の南側の沢筋の斜面には、下部に水田を配した「柿鋏」の家々が見えてきます。戸数は現在6軒。

算塚

和算家の筆塚

「丸山佐兵衛 翁 算塚」
「丸山家創立三代算術二志シ後二朋見流ト称シ、（略）弟子実ニ多シ（略）算術書ヲ作成之門弟二配リ（略）嘉永元申年七拾八才ニテ此ノ世ヲ辞ス 昭和三十九年三月吉日 七代 丸山定義建之」墓地に弘法大師像（昭和十三年）

筆塚は師の没後に門下子弟が集って建立。師の人柄が浮かぶ歌が添えられています。

「書きおきも形見となれや筆の後
我らいづこの裏ににすむとも」

祀る地区の氏神で、（修那羅山）祭礼には安宿神社の宮司が来る風習だそうです。地区を歩くと神社はの下に、沢、湧水、井戸跡、水車用の石臼なども見えます。

◎「日向」地区は現在2戸。長瀬の上部に位置。日向組神社には二神が祀られています。日向前の棚田は「根越沖」（根越下沖棚田）として「棚田百選」に選定されています。きれいに草刈りされた畔に、春には白い除虫菊の花が咲いていました。

◎長瀬を登った山の中に長瀬・日向の公民館あり、その裏に、庚申塔（「両組」）、甲子塔（「両組」）、道祖神（「長瀬組中」）石祠があります。「両組」とは長瀬・日向の二組で、公民館の前には昔往来もにぎやかだった古道があります。現在この公民館を使うのは年に3回ほどだそうです。

⑬ 長瀬（ながせ）・日向（ひなた）

犀川から山中に至る古道沿いの集落

◎「長瀬」地区は現在3戸、犀川に面した長い瀬から集落名がついたと思われる立地です。長瀬組神社は三神を

道祖神と甲子塔

古道沿い、集落の境界に建てられた堂々とした道祖神と甲子塔。

代八橋

大八橋　長瀬と平の間の犀川に架かる橋
対岸は旧八坂村瀬口（代と平の中間に架けられた橋）

⑭ 代（たい） 集落を歩く

松代藩の御林地 水利要衝の地

◎「大八橋」周辺の「代」地区には大代保（おおしろほ）神社があります。名称から「代」の地名は古くからあったとも言えるかもしれません。あきやさん（秋葉山）とも呼ばれ傾斜のきつい斜面に神楽を上げました。（今は下に祭神を移し、下で祭りを行う）赤い明神鳥居や境内に相撲の土俵がかつての賑わいを伝えます。川中島などからも素人力士がやってきたようです。

◎また、代には「代御林」「代新御林」があり、現地業務の直接管理担当「御林見」が藩から任命されました。林相の優れた面と川沿いの運搬の便も良い立地もあったのでしょう。火災の復興材にも使われたとの記録もあります。

常慶寺跡

花翁山常慶寺は、享保八年（一七二三）に中興開山という記録があり、以前もっと古くに開山されていた可能性もあります。昭和に入っても火災に遭い、今は仮本堂のみとなっていますが、境内に宝塔の供養塔や近くの庚申塔なども趣きのある重厚なもので、寺院の名残りを伝えています。

旧境内に常夜灯二基「元禄二己巳 三界萬霊塔」（砂岩）六地蔵・如意輪観音・五層供養塔「右 経 供養塔」「宝永二乙酉 南口」裏裏「常寺四世 見龍立之」・巡拝塔（百番観音供養塔）3基。

庚申塔

五層供養宝塔

常慶寺仮本堂の祭壇